

愛犬・愛猫の健康を守る口腔ケアとは？

● 3歳以上の犬猫の8割が歯周病

健康の基本はまず口腔ケアから！！

口腔ケアの目的は、歯周病予防。

犬猫の口腔内は、人と違い、アルカリ性のため虫歯菌が、繁殖しにくく、虫歯になりにくい代わりに、人よりずっと歯周病になりやすいと言われています。人が毎日、歯磨きをするのと同じように、犬猫も日々の口腔ケアは欠かせません。よって、歯周病予防が犬猫の口腔ケアの目的になります。

歯周病を引き起こすのは歯石ではなく歯垢

歯周病は3歳以上の8割が罹っているとされています。

ここで注意したいのが、歯周病の原因は歯石でなく、歯垢ということです。

歯垢とは食べカス、さらに唾液中の成分からできる歯の表面についているネバネバしたもので、その70%は細菌の塊です。この物質が、歯と歯肉(歯茎)の隙間(歯周ポケット)に溜まることで炎症が起こる病気です。見えている歯は、綺麗でも実は、見えない歯肉の中で進行している、、、ということも少なくありません。

進行すると口内だけに留まらない、怖い病気。

歯周病が酷くなると歯が抜けたり、細菌が繁殖すると歯根周囲の骨まで溶け出し、口の中や外に穴が開いたり、顎の骨が折れることがあります。

さらに炎症部から、細菌が入り体内を巡ると心臓や腎臓、肝臓などの内臓にも影響を及ぼします。口内だけでの問題でなく、全身に影響を及ぼし、命に関わる事態になってしまいます。歯周病を防ぐことは歯を守るだけでなく、犬猫の身体の健康を保つことに繋がっているのです。

飼い主さんには正しい知識を・・・！

プラーク(歯垢)をコントロール(除去)することが必要。

ペットショップなどでも歯磨きや歯石取りのメニューを見かけますが、ほとんどの場合、表面的な歯石を取っているだけです。**犬の歯垢は4日間で、猫の歯垢は7日間で歯石に変わります。**歯石とは歯垢に唾液中のミネラルが沈着して石灰化したもので、歯石の表面がザラザラしているため、ほっておくと歯垢が付着します。よって歯石除去すること自体は大切なことですが、それだけでは、本来の目的である歯周病の予防、プラーク(歯垢)をコントロール(除去)することではないので、歯石だけの除去では不十分であると、飼い主さんには、正しい知識を知ってもらうことが、大切です。

麻酔のリスク、治療が遅れることのリスクを良く考えましょう。

理想的な歯周病治療は、歯の表面の歯石や汚れを全て取り去り、歯周ポケットの中も綺麗にし、歯に新たな汚れをつきにくくするため、研磨して表面を滑らかにします。これらの処置はもちろん全身麻酔をかけて行います。

ただ、歯周病は、若い子にも起こり得ますが、圧倒的に老犬老猫に多く、どうしても身体に負担が大きくなってしまいます。歯周病の進行具合にもよりますが、治療が遅れることもまた、愛犬愛猫の健康にとって良くないことになりますので、獣医師さんに良く相談して、愛犬愛猫にとって最良の判断をしましょう。

歯周病は、治療するよりも予防の方が簡単な病気です。

一旦、歯周病になってしまうと治療が大変ですが、日々の口腔ケアで予防をすることの方が簡単な病気でもあります。人の口内の歯垢は平均で2週間から3週間で歯石化しますが、口内環境の違いから、**犬の歯垢は4日間で、猫の歯垢は7日間で歯石に変わります。**人の倍以上の速さで歯石化し始めるため、犬猫は、人以上に毎日の口腔ケアが必要です。

自宅での口腔ケアだけでなく、動物病院での定期的なチェックも合わせ、適切な治療と**正しい口腔ケア(プラークコントロール)**で、愛犬、愛猫の健康を守ってあげてください。

「健康な愛犬・愛猫との幸せな生活を送りたい」、飼い主さんのそんな想いを叶えてあげてください。